

# 森林整備推進協定締結に向けた取り組みについて

～造林未済地と間伐未実施林分の解消に向けて～

渡島森林管理署

## 背景・経過

- ・造林未済地と間伐未実施林分の解消が地域課題となっています。
- ・課題解消には施業の集約化と効率的な間伐の推進が必要と考えます。
- ・モデル的に八雲町や長万部町等に働きかけ、森林整備推進協定を締結に向けて協議を進めます。
- ・工程管理プログラムの活用や一貫作業システムの導入による施業の集約化・効率化など検討します。

## 目標

- ・民国連携した路網整備や中間土場の共同利用など様々な取り組みを実現し、造林未済地と間伐未実施林分の解消を目指します。
- ・次期地域管理経営計画並びに市町村森林整備計画に、森林共同施業団地の設定等を反映させ、地域の効率的な森林整備を目指します。

## 平成28年度の取り組み結果

### 1 森林整備推進協定の締結に向けて

八雲町、長万部町とともに昨年度実施した森林整備推進協定締結に向けた先進地の視察等を踏まえて、各町長及び山越郡森林組合参事へ国有林の施策や協定のメリット等の説明を積極的に行いました。



### 2 工程管理プログラムの活用

局及び後志署の協力のもと、機械力に応じた低コスト作業システム構築のための工程管理プログラムの説明会を平成28年7月20日に開催し、林業事業者や森林組合の間伐コストの見える化を進めました。



### 3 一貫作業システムの現地検討会

伐採から地拵、コンテナ苗の運搬、植栽を同時に行う一貫作業システムの事業地において、近隣自治体、森林組合を対象とした現地検討会を平成28年10月20日に開催し、一貫作業による低コスト化、誘導伐による複層林化への誘導に関する国有林の考え方について説明しました。



## 今年度の成果

○積極的に森林整備推進協定のメリット等を説明し、その必要性について、理解が得られた。

○3事業者、4森林組合を含むのべ48名が参加。

・アンケート調査で改良点など積極的な意見が出される等、工程管理の必要性について理解が深まり、工程管理プログラムの改良にも寄与。

○八雲町、山越郡森林組合など延べ37名が参加しました。

・一貫作業の必要性は理解されましたが、コンテナ苗の確保や事業発注の難しさが指摘されました。

## 今後に向けて

○今後とも森林整備推進協定の必要性・メリットを事例を示しながら丁寧に説明し早期締結を目指します。

○アンケート結果を分析して、さらにプログラムを活用した間伐コストの見える化に向けて、データの分析や技術的指導に取り組めます。

○台風被害木処理に伴う更新箇所でのコンテナ苗の活用や、一貫作業システムによる事業実行に取り組み、低コスト施業の普及・定着を目指します。